

6月17日(土)

「パワーアップ研修会」を実施!!



美術館到着後、「滋賀県立美術館の取組みについて」学ぶ
(講師:木村副館長 於:美術館レクチャールーム)



<玄関前で記念写真:木村副館長さん(2列目右)と共に>

恒例の「パワーアップ研修会」は、今回で6回目です。爽やかに晴れ上がった早朝、倉吉を出発して研修地の滋賀県大津市を目指しました。時季を早めて開催した為か初めての参加者も多く、共に有意義な研修ができました。

今回も、バス乗車時の出席確認や会費の集金、車中での事前学習用資料配布や上映用ビデオの準備等を後方支援チームが行うという、会員手作りの研修会を実施しました。

研修後の感想は、「4時間かけて伺った意味がよく分かり、早起きして参加してよかった。」「美術館の置かれている状況をよく分析して分かり易く説明して頂き、聞き入ってしまった。」「リニューアル後の美術館運営の素晴らしさや大変さ、アイデア等の様々な工夫や素早い実行力は新鮮。新しい発見があり、今後参考にしたい。」「リビングのような…というコンセプトがピッタリで、雰囲気の良い時が過ごせた。鳥取県立美術館もこんな癒しを与えられるよう願う。」「山陰ゆかりの学芸員さんの解説を聞きながらの鑑賞、日本の近代美術についての関心が湧いてきた。」「学芸員さんの企画力あつての素晴らしい作品展、こんな見応えのある展示ならまた次もここを訪れたい。」等々多数。時折、鳥取県立美術館と重ね合わせながら研修し、それぞれが多くの学びを得られて大満足な一日となりました。

6月24日(土)

「緑の彫刻プロムナード研修会」を実施 !!

昭和60(1985)年に廃線になった国鉄倉吉線の跡地が「水と緑と文化のまちづくり」の一環として整備(西は「まちかどステーション」、東は「上灘コンフォートステーション」まで約2km)され、33年前に完成したそうです。今回は研修1回目として、このプロムナードの一部を1時間余りかけて巡りました。

案内人は、根鈴輝夫氏(倉吉博物館館長)です。準備して下さった資料を手に解説を聞きながら、遊歩道に点在する著名な作家の彫刻作品に触れたり、その場の雰囲気を感じたりして鑑賞しました。

旧打吹駅舎付近の緩やかに蛇行する遊歩道は、東京スカイツリー設計者の澄川喜一氏(元東京芸大学長 令和4.4.9 永眠)が創案されたそうです。旧上灘駅舎跡には氏の代表作「To The Sky」が立っています。終了後、「気の合った仲間と季節の景観を楽しんで散策したい。」「観光等で訪れた人に、このまちの魅力を口コミで伝え広げていくことが大事!」という話に次の研修を考えていきます。



25年振りに自作の前に立つ澄川喜一氏